**家事塾は、子どもの「自立」を応援しています。**

**はじめまして、「家事塾」です。**



**世の中の大人のみなさんへ**

子育てにはゴールがあるのでしょうか。あるとしたら、それはいつでしょうか。子どもが結婚をするとき。社会人になって働きはじめたとき。子どもができて親になってくれたとき。いやいや、子育てに終わりはない、親は死ぬまで親なのだ。

―いろいろな考え方があるでしょう。私は、いつも「子育てにはゴールがあるのです」とお伝えしています。それは、子どもを家から追い出す日。子どもが家から出ていく日。「あなたには、色々なことを仕込んだよ。もう、親のたすけや監督がなくても、一人でなんとかやっていけるはず。だから、家から巣立っていきなさい」と、親が子どもの背中を押してあげる日です。その日に、子どもははじめて自分の足で立ち、人生を生きるよろこびや苦しみを自分のものにする。自分を律することの大切さ、一人では生きていけず人の力を借り、力を貸しながら暮らす必要性も、理解する。つまり、親にとってのゴールは、子どもにとってのスタートなのだと言えます。　　　　　　 辰巳渚『子どもが変わる「育て言葉」』より



**いまを生きる10代のきみたちへ**

まず、親の家を出てひとりで生きていくとはどういうことか、想像してみよう。ひとりで生きるとは、ぽつんとたっていることではない。家を探して「ここが私の住まい」と決め、その家を住みやすく整える。床の掃除をし、ガラスを磨き、居心地のいい窓辺には自分の好きな椅子を置く。朝、起きたら、雨戸をあけて布団をたたみ、朝ごはんを作って食べる。そうだ。前の日には、朝ごはんのための材料を買っておくことも、しなければいけない。仕事に出かけるなら、家の戸締りをして鍵を自分で閉めて出ていく。ごみの収集日であれば、ゴミも出しておく。昼間のうちに、電気料金を支払ったり、買い物のためのお金を銀行で下ろしておいた方がいいだろう・・・・・（略）あなたたちのいつもの生活と、何が違うのか。いつもならお父さんやお母さんがしてくれる、色々な仕事を、自分でしなければならない。つまりは、しなくてはいけないことが増えて、大変になるだけではないか。そう思うだろうか。

私なら、違うふうに考える。違うのは、自分で自分の暮らしを管理できることだ、と。家を出てひとりで暮らしはじめると、自分の暮らしは自分のものになる。親の決めたことに従うのではなく、自分で決めたことに自分でしたがうことができる。これはもう、「従う」ということではない。「自律」していきるということだ。（略）ひとりで生きるときには、自発的にする楽しみがある。たいへんだけれども、自分が決めてしようとし、自分の力でしていくときには、親の家でしていた時とはまったく違う充実感がある。あなたたちのいつもの生活と違うのは、この「自分で決めて自分でする」かけがえのない充実感があるという点なのだ。

よく「生きがい」とか「生きる力」とかいうけれど、おそらく「生きる」とはそんなにわかりにくいことではない。手に入りにくい高いところにあるわけでもないし、目に見えない抽象的なものでもない。生きるとは、とても具体的で、身体の営みと直結している。この具体的な営みをきちんとなしているときに「私はたしかに生きている」という実感がおのずから湧いてくるものでもあるのだろう。 辰巳渚『家を出る日のために』より



**家事塾**（かじじゅく）

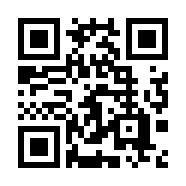
「家のコトは生きるコト」の理念のもと、2008年に故・辰巳渚が設立。家事について学ぶ各種講座の開催、暮らしの専門家である「家事セラピスト養成」など、さまざまな活動を展開している。

**一般社団法人 辰巳渚の家事塾**

〒104-0061　東京都中央区銀座1-22-11 銀座大竹ビジデンス2F

TEL：0487-73-8078　FAX:0467-88-5298　Email：info@kajijuku.com

http://kajijuku.com



**― いつか家を出る日のために ―**



**家出塾**

現在、自立の必要性は認識されていますが、では自立とはどのようなことなのかが抽象的なまま、あるいは「成熟」というあいまいな精神論のまま、「若い人が自立できていない」ことが社会問題として取り上げられているのが実態です。また、義務教育（社会的な教育）と家庭教育（家族間の教育）のはざまで、子どもを一人前に自立させるための教育がなされないまま成長し、その後も若い人が高校、大学の時期を自立に向かう大人からのケアを受けずに過ごし、社会人としていきなり自立を求められている面があります。

　家事塾では、このギャップをつなぐための家出塾を開催しています。大人でもなく子どもでもない、あいまいで不安な年齢を迎えた若い人のために、「家を出る日のために！」を合言葉に開催します。 生活を追体験しながら、自立して生きていくことについて考えるワークショップとともに、身につけておきたい生活技術を学ぶ実習を行います。

|  |  |
| --- | --- |
| 学習内容 | 自立や暮らしについてのワークショップ、実習  （そうじ、片づけ、洗濯、配膳など） |



**カードゲーム講座　―いつか家を出る日のために**



ジュニア期の子どもたちと「自立って何だろう？」ということを一緒に考える講座です。また、その教材として、「自立」を具体的な行動や考え方として提示し、若い人が自分の中に行動の基準や考え方の枠組みを作っていけることを目的として、カードゲームを作成しました。

辰巳渚と家事セラピストがひとり暮らしをする際に「知っておいてほしいこと」を盛り込んだ質問カードを題材に、グループでディスカッションしながら考えていきます。他の友達の多様な考えを聞くことで、コミュニケーション能力や自身の視野を広げることにも有効です。学校の授業や学習塾の合宿の一環としても取り入れられているプログラムです。

カードゲーム『家を出る日のために』

また、小学生～ジュニア期のお子さんがいる親御さんが、子どもに伝えたいこと、伝えるべきことを再確認し、「いつか家を出る日」を考えるきっかけとして考えられる講座でもあります。

**カードゲーム講座「家を出る日のために」　５月５日（　）開催！**

こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。こちらに告知文などを入れてください。